

令和3年度 埼玉県学力・学習状況調査の結果(深谷小学校)

平均正答率

(単位 %)

教科	国語			算数		
	小4	小5	小6	小4	小5	小6
深谷小	59.8	61.1	60.2	71.3	68.1	66.0
埼玉県	58.0	56.7	58.6	69.9	61.6	60.9

質問紙調査より

※質問事項は質問紙調査より抜粋したもの

※「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」を合わせた値

(単位 %)

	質問事項	小4		小5		小6	
		深谷小	埼玉県	深谷小	埼玉県	深谷小	埼玉県
生活習慣	・脱いだ履き物のかかとをそろえる	83.3	83.3	86.0	83.6	96.2	86.8
	・相手の顔を見て、はっきりあいさつをすることができる(小4) ・自分からはっきりあいさつをすることができる(小5、小6)	89.2	78.5	95.3	78.2	91.3	78.0
	・相手の気持ちを考え、やさしい言葉づかいができる	91.0	84.6	93.8	84.6	93.8	84.1
学習習慣	・学校の宿題をしている	94.9	94.9	96.9	96.2	97.6	96.1
	・学校の授業の予習や復習をしている	74.4	69.3	73.5	69.9	83.9	70.0
	・平日、学校の授業時間以外に1時間以上勉強している(塾等を含む)	47.5	51.1	64.1	58.3	75.4	64.9
学習等への関心	・勉強することが楽しい、好き(勉強する理由として)	84.6	70.0	81.3	63.8	71.6	57.8
	・勉強は将来の進学や就職に役に立つ(勉強する理由として)	91.0	88.3	98.4	88.7	96.3	90.8
	・地域の歴史や自然に関心をもっている	80.8	77.5	82.8	70.9	76.5	63.7
その他	・自分には、よいところがある	84.6	80.2	95.3	77.9	79.0	69.8
	・難しいことでも失敗をおそれないで挑戦している	87.2	80.3	87.5	79.9	80.3	75.8
	・将来の夢や目標をもっている	88.5	89.0	95.4	88.3	91.3	83.4

深谷小の「よかった点 (○)」と「課題 (●)」

【国語】

- 4年: 文の構成を理解し、文中から正しい主語・述語を選択する問題(困難度7-A)において、65.4%の正答率で県の正答率を12%以上上回った。また、指示語の示す内容を文中から書き抜く問題(困難度7-A)においても79.5%の正答率で県の正答率を25%以上上回った。
- 4年: 記述式問題において正答率が12.8%と低く、県や市の平均を下回った。また、県や市の正答率も低い、「辞書の正しい使い方」に関する問題の正答率の低さが目立つ。
- 5年: 漢字の読み書きや部首、熟語の漢字の組み合わせについての問題は全て県や市の平均を上回った。また「読むこと」に関する問題では県の正答率を4.1%上回り、読解力も着実に身に付いていることがうかがえる。
- 5年: 記述式問題において正答率23.4%と低く、県や市の平均を下回った。また、「話すこと・聞くこと、書くこと」に関する領域がわずかではあるが県や市の平均を下回り、他の領域と比較すると平均正答率も低い。(深谷小:38.7% 県:40.6%)
- 6年: 4領域全てにおいて、市の平均正答率を上回っており、学習内容の定着が見られる。また、記述式問題の正答率も61.7%で県の正答率を24.2%上回った。書く力も確実に身に付いていることがうかがえる。
- 6年: 登場人物の心情の説明を選ぶ問題(深谷小:54.3% 県:66.8%)や登場人物の考え方を説明する問題(深谷小:54.3% 県:57.8%)でやや正答率が低く、読解力における課題が見られた。

【算数】

- 4年: 単位の換算や計器を使った測定に関する問題は正答率が85%を上回っており、理解度の高さがうかがえる。また、記述式問題も県や市の正答率を3.4%上回った。
- 4年: 円の性質を用いた問題全て(3問)において、県や市の正答率を下回った。また、表やグラフに関する問題(データの活用)でも県や市の正答率を下回る問題が多い。
- 5年: 県の平均正答率を6.5%も上回っている。また、領域ごとに見ても4つ全ての領域において県や市の平均を上回り、全体的に学習内容の定着度が高い。記述問題においても、解答の根拠を明確に記述できている児童が多かった。
- 5年: 概数を用いて足りるかどうか見積もるときの考え方を学ぶ問題において、48.4%の正答率で県の正答率を10.5%下回った。
- 6年: 4領域全てにおいて県の平均正答率を上回っている。また、基礎基本を問う問題は、どれも正答率が90%を超えており、学習内容が確実に身に付いていることが分かる。
- 6年: 割合に関する問題で、県の正答率を下回る問題が2問あった。また、県の正答率も低い、「記述式の問題」において正答率が8.6%と低かった。(県:5.7%)

【質問紙】

- 全ての学年において、ほとんどの項目について肯定的回答が県平均値を上回っている。
- 「あいさつ」についてはどの学年も県平均より10%以上高く、学校全体の取組として定着している。
- 県平均は上回っているものの、「勉強が好き」と回答する児童が上の学年ほど少なくなる。

課題への取組・改善策

【国語】

- ・業前の「チャレンジタイム」で、問題文を正確に読み取り、条件に合った文章の書き方についての指導を引き続き行っていく。また、解説の時間の際には、児童一人一人が解答の根拠を明確に持てる指導を工夫する。「書くこと」に関しては、国語の時間だけでなく他教科とも関連させることで、根拠を持って自分の考えを説明する力をつけていく。
- ・辞書を積極的に使用することにより、言葉の意味理解だけでなく語彙を増やせるようにしていく。

【算数】

- ・国語同様「チャレンジタイム」で、基礎的な計算だけでなく、答えに至る過程を説明する練習に引き続き取り組む。また、各学年の課題に関する問題に取り組む時間を定期的に設ける。
- ・少人数指導を積極的に取り入れ、個に応じた指導をよりきめ細かく行い、各層の児童の学力を伸ばす。また、基礎基本の内容の理解に不安のある児童は、短時間の補充教室を継続して行い、定着度を高める。

【その他】

- ・学習内容の定着、学習意欲向上のために、ICT機器を積極的に活用した授業を展開する。それに伴い、児童の機器の活用力を高めるための時間も設定していく。